

安全データシート

結晶質シリカ

飼料品質改善協議会

プレミックス研究会

連絡先：巻末のプレミックス研究会会員一覧を参照のこと。

作成年月日:2026年3月3日


1. 化学品名及び会社情報

化学品の名称	結晶質シリカ
供給者の会社名称	日本ニュートリション株式会社
住所及び電話番号	東京都港区南青山一丁目1番1号 TEL:03-5771-7890
用途	飼料または飼料添加物
使用上の注意	なし

2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類

物理化学的危険性	爆発物	分類対象外
	可燃性ガス	分類対象外
	エアゾール	分類対象外
	酸化性ガス	分類対象外
	高压ガス	分類対象外
	引火性液体	分類対象外
	可燃性固体	区分外
	自己反応性化学品	分類対象外
	自然発火性液体	分類対象外
	自然発火性固体	区分外
	自己発熱性化学品	区分外
	水反応可燃性化学品	区分外
	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	分類できない
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性化学品	分類できない

	鈍性化爆発物	分類できない
健康有害性	急性毒性（経口）	分類できない
	急性毒性（経皮）	分類できない
	急性毒性（吸入：ガス）	分類対象外
	急性毒性（吸入：蒸気）	分類対象外
	急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	分類できない
	皮膚腐食性／刺激性	分類できない
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 2
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	区分 2
	発がん性	区分 1A
	生殖毒性	分類できない
	生殖毒性・授乳に対する又は授乳を介した影響	分類できない
	特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分 3（気道刺激性）
	特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分 1（呼吸器、免疫系、腎臓）
環境に対する有害性	誤えん有害性	分類できない
	水生環境有害性 短期（急性）	分類できない
	水生環境有害性 長期（慢性）	分類できない
	オゾン層への有害性	分類できない
GHS ラベル要素		
絵表示またはシンボル		
注意喚起語	危険	
危険有害性情報	強い眼刺激 呼吸器への刺激のおそれ 発がんのおそれ 長期にわたる、又は反復ばく露による呼吸器、免疫系、腎臓の障害	
注意書き	【安全対策】 使用前に取扱説明書を入手すること。	

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。

取扱後はよく手を洗うこと。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。

保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

【応急措置】

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診断／手当てを受けること。

気分が悪い時は医師に連絡すること。

気分が悪いときは、医師の診断／手当てを受けること。

眼の刺激が続く場合：医師の診断／手当てを受けること。

【保管】

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。

【他の危険有害性】

データなし

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	単一製品
化学名又は一般名	シリカ(結晶質、非晶質を包含した二酸化ケイ素)
慣用名又は別名	二酸化けい素、クオーツ、クリストバル石
化学物質を特定できる一般的な番号	CAS No. 7631-86-9

成分及び濃度又は濃度範囲	100%
官報公示整理番号	(化審法) 1-548 (安衛法) データなし
GHS 分類に寄与する不純物及び安定化添加物	データなし

4. 応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。症状が続く場合には、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	大量の水と石けんで洗うこと。症状が続く場合には、医師に連絡すること。
眼に入った場合	水で15～20分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。症状が続く場合には、医師に連絡すること。
飲み込んだ場合	水で口をすすぎ、直ちに医師の診断を受けること。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	データなし
応急措置をする者の保護に必要な注意事項	救助者は、状況に応じて適切な眼、皮膚の保護具を着用する。
医師に対する特別な注意事項	データなし

5. 火災時の措置

適切な消火剤	周辺火災に応じて水噴霧、粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素を使用する。
使ってはならない消火剤	火災が周辺に広がる恐れがあるため、直接の棒状注水を避ける。
特有の危険有害性	火災等の場合は、毒性の強い分解生成物が発生する可能性がある。
特有の消火方法	消火活動は風上から行う。 火災場所の周辺には関係者以外の立ち入りを規制する。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	消火作業の際は、適切な保護具や耐火服を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置	関係者以外の立入りを禁止する。 作業者は適切な保護具（「8.ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。
環境に対する注意事項	周辺環境に影響がある可能性があるため、製品の環境中への流出を避ける。
封じ込め及び浄化の方法 及び機材	飛散した物を掃き集めるか、真空掃除機で吸引する等できるだけ飛散発じんしないようにして、空容器等に回収する。 取扱いや保管場所の近傍での飲食の禁止。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	「8.ばく露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、必要に応じて保護具を着用する。
安全取扱注意事項	使用前に使用説明書を入手すること。 すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 保護手袋／保護衣／保護めがね／保護面を着用すること。 取扱い後はよく手を洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 粉じんを発生させないようにする。
接触回避	データなし
衛生対策	屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
保管	
安全な保管条件	施錠して保管すること。 容器を密閉しておくこと。 保管場所には危険・有害物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な照明及び換気の設備を設ける。直射日光を避け、冷暗所に保管する。
安全な容器包装材料	破損や漏れの無い密閉可能な容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	$E = 3.0 / (1.19Q + 1)$ E：管理濃度 (mg/m ³)
------	---

	Q : 当該粉じんの遊離けい酸含有率 (%)
許容濃度(ばく露限界値、 生物学的指標)	日本産業衛生学会(2015年度版) : 0.03 mg/m ³ (吸入性結晶質シリカ) ACGIH(2015年度版) : 未設定
設備対策	粉じんが発生する作業所においては、必ず密閉された装置、機器または局所換気装置を使用する。
保護具	
呼吸用保護具	粉じんが発生する場合、必要に応じて保護マスクや呼吸用保護具を着用する。
手の保護具	手に接触する恐れがある場合、保護手袋を着用する。
眼・顔面の保護具	眼に入る恐れがある場合、保護眼鏡やゴーグルを着用する。
皮膚及び身体の 保護具	必要に応じて保護衣、保護エプロン等を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	固体 (20°C、1 気圧) (GHS 判定)
色	青白色～灰色 (DFGOT vol. 2(1991))
臭い	データなし
臭いのしきい(閾)値	データなし
融点／凝固点	1,710°C (DFGOT vol. 2(1991))
沸点又は初留点及び沸点 範囲	2,230°C (DFGOT vol. 2(1991))
可燃性	データなし
爆発下限界及び爆発上限 界／可燃限界	データなし
引火点	不燃性 (NITE 総合検索(2015))
自然発火点	不燃性 (NITE 総合検索(2015))
分解温度	データなし
pH	合成非晶質シリカ (SAS) :4～9 (SIDS (2006))
動粘性率	データなし
溶解度	水 : 合成非晶質シリカ (SAS) :約 15～68 mg/L (20°C, pH 5.5～6.6) (SIDS (2006))
n-オクタノール／水分配 係数 (log 値)	データなし
蒸気圧	ほぼ 0 (NITE 総合検索(2015))

密度及び／又は相対密度	2.1 (農薬技術情報 (1992))
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし
10. 安定性及び反応性	
反応性	データなし
化学的安定性	データなし
危険有害反応可能性	データなし
避けるべき条件	データなし
混触危険物質	データなし
危険有害な分解生成物	データなし
11. 有害性情報	
急性毒性	
経口	GHS 分類：区分外 ラットの LD50 値として、> 3,160 mg/kg (EPA pesticide (1991))、> 3,300 mg/kg (親水性焼成シリカ)、> 2,000 mg/kg (疎水性焼成シリカ)、> 5,000 mg/kg (疎水性焼成シリカとして 3 件、親水性沈降シリカとして 1 件、計 4 件)、> 5,110 mg/kg (親水性沈降シリカ) (ECETOC JACC (2006)、SIDS (2006)) との 8 件の報告がある。最も多くのデータ (7 件) が該当する区分外とした。
経皮	GHS 分類：区分外- ウサギの LD50 値として、> 2,000 mg/kg (シリカゲル) 及び > 5,000 mg/kg (沈降シリカ) (ECETOC JACC (2006)、SIDS (2006)) との報告に基づき、区分外とした。
吸入：ガス	GHS 分類：分類対象外 GHS の定義における固体である。
吸入：蒸気	GHS 分類：分類対象外 GHS の定義における固体である。
吸入 (粉じん・ミスト)	GHS 分類：分類できない データ不足のため分類できない。 親水性シリカのラットの LC50 値 (4 時間) として、> 0.691 mg/L (ECETOC JACC (2006)) 及び > 2.08 mg/L (ECETOC JACC (2006)、SIDS (2006))、疎水性シリカの

ラットの LC50 値 (4 時間) として、0.09 mg/L、0.09～0.84 mg/L、0.45 mg/L、0.5 mg/L、0.6 mg/L、0.8 mg/L、1.65 mg/L、>2.22 mg/L との 8 件の報告、計 10 件の報告 (ECETOC JACC (2006)) がある。ECETOC JACC (2006) 本文中には、疎水性シリカでみられた死亡は毒性によるものではなく、被験物質粒子の高濃度投与での窒息によるとの記載があるため、分類には採用しなかった。親水性シリカの 2 件の情報のみでは区分を特定できない。なお、被験物質が固体であるため、粉じん、ミストの基準値を適用した。

皮膚腐食性／刺激性

GHS 分類：区分外

ウサギを用いた皮膚刺激性試験 (OECD TG 404) において、沈降シリカ (CAS 番号: 112926-00-8) を適用した結果刺激性はみられなかったとの報告 (SIDS (2006)、ECETOC JACC (2006)) がある。また、形態の異なる沈降シリカ又は非晶質シリカ (CAS 番号: 112945-52-5) をそれぞれウサギに 24 時間適用した試験において、いずれも刺激性はみられなかったとの報告がある (SIDS (2006)、ECETOC JACC (2006))。以上より、区分外とした。

眼に対する重篤な損傷性
／眼刺激性

GHS 分類：区分 2

ウサギを用いた眼刺激性試験 (OECD TG 405) において、沈降シリカ (CAS 番号: 112926-00-8) 適用による刺激性はみられなかったとの報告がある (SIDS (2006)、ECETOC JACC (2006))。また、形態の異なる沈降シリカ又は非結晶性シリカ (CAS 番号: 112945-52-5) をウサギに適用した試験の報告が複数あり、眼刺激性はみられなかったとの報告や、軽度の結膜炎、軽度から中等度の結膜発赤、角膜混濁がみられたとの報告があるが、いずれの症状も回復性であったとの報告がある (SIDS (2006)、ECETOC JACC (2006))。以上より区分 2 とした。

呼吸器感作性又は皮膚感
作性

GHS 分類：分類できない

データ不足のため分類できない。

生殖細胞変異原性

GHS 分類：分類できない

ガイダンスの改訂により区分外が選択できなくなったため、分類できないとした。すなわち、in vivo では、経口投

発がん性	<p>与によるラットの優性致死試験、経口投与によるラット骨髓細胞の染色体異常試験で陰性 (ECETOC JACC (2006)、SIDS (2006))、in vitro では、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の遺伝子突然変異試験、染色体異常試験で陰性、哺乳類培養細胞の小核試験で弱陽性である (ECETOC JACC (2006)、SIDS (2006))。</p> <p>GHS 分類：区分 1A</p> <p>本 CAS 番号が示す物質群はシリカ (SiO₂) で、シリカの全形態が包含される (ECETOC JACC No. 51 (2006))。すなわち、本物質群には結晶質シリカが含まれ、その発がん性分類結果が適用可能と考えられることから、本項は区分 1A とした。</p>
生殖毒性	<p>GHS 分類：分類できない</p> <p>データ不足のため分類できない。</p>
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	<p>GHS 分類：区分 3 (気道刺激性)</p> <p>シリカゲル (CAS 番号：112926-00-8) は気道刺激性があるとの報告 (SIDS (2006)、ECETOC JACC (2006)) から、区分 3 (気道刺激性) とした。</p>
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	<p>GHS 分類：区分 1 (呼吸器、免疫系、腎臓)</p> <p>ヒトにおいて、石英、クリストバライトでは珪肺症が報告されている。また、実験動物においても石英、クリストバライトで線維形成性があることが報告されており、そのほか、石英では自己免疫疾患、慢性腎疾患及び無症状性の腎変性、溶融シリカで金属ヒューム熱のような回帰熱の報告がある (ACGIH (7th, 2006))。</p> <p>したがって、区分 1 (呼吸器、免疫系、腎臓) とした。</p>
誤えん有害性	<p>GHS 分類：分類できない</p> <p>データ不足のため分類できない。</p>

12. 環境影響情報

生態毒性	
水生環境有害性 短期 (急性)	分類実施中
水生環境有害性 長期 (慢性)	分類実施中
残留性・分解性	データなし

生態蓄積性	データなし
土壌中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。

13. 廃棄上の注意

化学品（残余廃棄物）， 当該化学品が付着している 汚染容器及び包装の安全で，かつ，環境上望ましい 廃棄，又はリサイクル に関する情報	残余廃棄物：廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、または地方公共団体が廃棄物処理を行っている場合はそこに委託して処理する。 洗浄してリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
--	---

14. 輸送上の注意

国連番号	非該当
品名（国連輸送名）	非該当
国連分類(輸送における 危険有害性クラス)	非該当
容器等級	非該当
海洋汚染物質	非該当
国内規制がある場合の規制 情報	海上規制情報：船舶安全法に従う。 航空規制情報：航空法に従う。 陸上規制情報：消防法、道路法に従う。
特別安全対策	移送時にイエローカードの保持が必要。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 重量物を上積みしない。

15. 適用法令

該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

労働安全衛生法	名称等を表示すべき危険有害物（法第 57 条、施行令第 18 条別表第 9）
---------	--

名称等を通知すべき危険有害物（法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 別表第 9）

リスクアセスメントを実施すべき危険有害物（法第 57 条の 3）

じん肺法	法第 2 条、施行規則第 2 条別表粉じん作業
海洋汚染防止法	有害でない物質
外国為替及び外国貿易管理法	輸出貿易管理令別表第 1 の 16 の項

16. その他の情報

この安全データシートは、いくつかの安全データシートの情報を参考にして、飼料品質改善協議会 プレミックス研究会が作成したものです。全ての資料や文献を調査したわけではないため、情報に漏れがあるかもしれません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合は、別途、資料や文献を調査し検討されるか、試験によって確かめることをお勧めします。なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。また、注意事項は、通常取り扱いを想定しており、特殊な取り扱いの場合には、別途注意が必要になることをご配慮ください。

<引用文献>

- 厚生労働省 職場のあんぜんサイト：モデル SDS(シリカ(結晶質、非晶質を包含した二酸化ケイ素))
- その他各データごとに記載

<改訂履歴>

版	日付	内容
初版	2019年7月9日	—
2版	2026年3月3日	修正